2019/1/16　(C)繊維ニュース 2面

TSIホールディングス

構造改革に成果、セレクト業態が好調

中国の婦人服「M・ツボミ」は撤退も

TSIホールディングスの上田谷真一社長は15日、今期中での構造改革にめどを付ける考えを明らかにし、中国で展開する婦人服「M・ツボミ」については、撤退を含めた事業の見直しを図る。また、事業会社の東京スタイルが販売する「ヴァンドゥー・オクトーブル」「アリスバーリー」は、撤退費用として4億円を計上。早い段階で「うみを出し切る」と述べ、百貨店向けブランドについては今後、事業会社サンエー・インターナショナルに販売を一本化する。

中国で赤字が続いている「M・ツボミ」は、3年前に120店舗あった販売拠点を約50店舗に縮小。昨夏には創業デザイナーを交代させ、企画のてこ入れを図った。

その一方、中国でモード系重衣料の競合ブランドが増え、「M・ツボミ自身も時代に合ったモデルチェンジができなかった。あくまでも自力再生を目指すが、資本提携や撤退を含めた事業の見直しを進めている」(上田谷社長)と説明した。

東京スタイルが販売する婦人服「ヴァンドゥー・オクトーブル」「アリスバーリー」については、TSIの事業戦略に合致しないことから昨年末に撤退を決めた(今年2月末で国内事業を撤収)。

TSIでは、2014年3月に会社分割で設立した東京スタイルとサンエー・インターナショナルの機能統合を進めており、今後はサンエー1社体制とし、意思決定のスピード化を図る。

既に構造改革の成果が出ているセレクト業態「ナノ・ユニバース」「ロードスパッド」は、過年度の在庫処理を進めるほかシステム面を強化。好調ブランドの「マーガレット・ハウエル」と併せ、セールや電子商取引(EC)のクーポン戦略(値引き)に頼らないプロパー販売を推進する。

「ナノ・ユニバース」がけん引

TSIホールディングスの2018年3～11月期決算は、売上高1173億円(前年同期比1・9%増)、営業利益33億円(4・0%増)、経常利益45億円(3・9%増)、純利益25億円(11・1%減)だった。(短信既報)

セレクト業態の「ナノ・ユニバース」は前年同期比8・1%増の191億円と好調で、特に婦人商材が15%増と伸びた。秋冬のコート商戦は全体的に苦戦したものの、コラボ企画やニットウエア、キャラクター性やエッジの効いたブランドがコートの売り上げをカバーした。

ブランドの事業整理が進んだことで、今後は海外事業や基幹ブランドの販売に注力する。上田谷真一社長は「(基幹ブランドでは)デザイナーの質・量ともに不足していた。感性の部分を強化したい」と、「ナチュラルビューティーベーシック」「ヒューマンウーマン」などでは企画人員を補強する。

通期は売上高1640億円(前期比3・5%増)、営業利益15億円(30・8%減)、経常利益28億円(26・1%減)、純利益16億円(50・3%減)を見込む。